

## 資料1

2018年度「野生生物と社会」学会事業報告・会計報告

2018年度末会員数：508名（詳細は次頁および資料2を参照）

### 1. 会議

理事会	2018年 4月22日	酪農学園大学東京オフィス
	2018年11月23日	九州大学伊都キャンパス
総会	2018年11月24日	九州大学伊都キャンパス

### 2. 大会

第24回大会	2018年11月23日-11月26日	九州大学伊都キャンパス
--------	--------------------	-------------

### 3. 学会誌等

学術誌	2018年10月	6巻1号発行
フォーラム誌	2018年 8月	22巻1号発行
	2019年 3月	23巻2号発行

### 4. 部会活動等

青年部会	2018年11月	役員選挙
	2018年11月	大会テーマセッション開催
	2019年 3月	企業セミナー大会
行政研究部会	2018年 6月	野生動物管理全国協議会主催シンポジウムの共催
	2018年11月	大会テーマセッション開催
	通年	重点プロジェクトの設置

### 5. その他

2018年11月	放射線被ばく影響調査要望書の共同提出（環境省、福島県）
2018年11月	学会誌電子化に関わる決議
	外部シンポジウム等の後援：4件

## 資料1

## 「野生物と社会」学会 2018年度 会計報告書 (2018年4月1日～2019年3月31日)

## 【 1. 収支計算書 】

単位:円

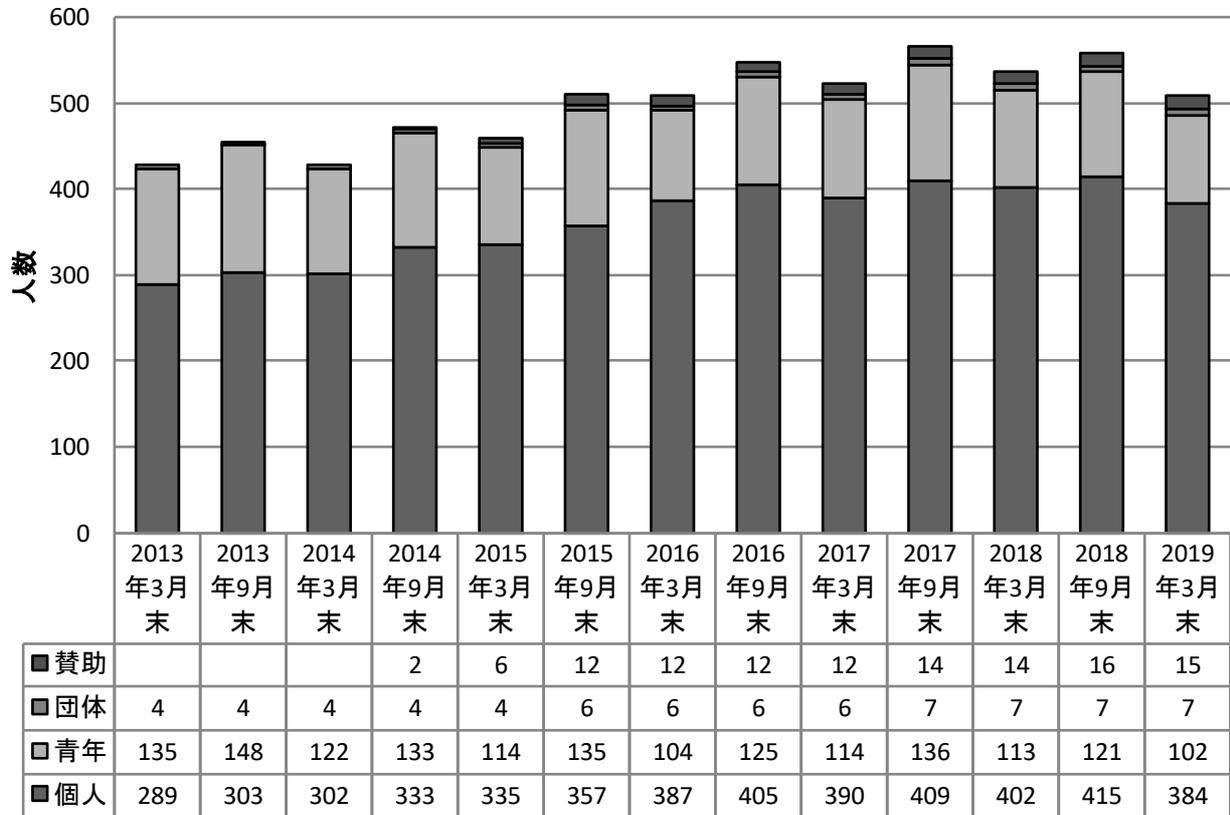
部	科目	予算額	前期	後期	決算額 (前期後期合計)	増減 (決算-予算)	備考
			4/1～9/30	10/1～3/31			
収入	<b>会費収入 合計</b>	<b>4,500,400</b>	<b>666,000</b>	<b>3,550,000</b>	<b>4,216,000</b>	△ 284,400	
	～前年度会費	64,000	56,000	64,000	120,000		
	当年度会費	1,363,200	550,000	350,000	900,000		
	次年度会費	3,073,200	60,000	3,136,000	3,196,000		
	<b>雑収入 合計</b>	<b>15,010</b>	<b>37,865</b>	<b>6</b>	<b>37,871</b>	22,861	
	電子図書著作権料	0	0	0	0		
	バックナンバー・別刷	10,000	0	0	0		
	預金利子	10	5	6	11		
	その他	5,000	37,860	0	37,860		未払金誤差調整
	<b>フォーラム誌関係収入</b>	<b>226,000</b>	<b>198,000</b>	<b>209,778</b>	<b>407,778</b>	181,778	
F誌売上	10,000	0	2,778	2,778		3冊	
F誌広告	216,000	198,000	207,000	405,000		22-1(2社)22-2(5社) 23-1(5社)23-2(5社)	
<b>大会会計繰戻金</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>221,169</b>	<b>221,169</b>	221,169		
<b>当期収入合計(A)</b>	<b>4,741,410</b>	<b>901,865</b>	<b>3,980,953</b>	<b>4,882,818</b>	141,408		
<b>前年度繰越額</b>	<b>3,182,663</b>	<b>3,182,663</b>	<b>0</b>	<b>3,182,663</b>	0		
<b>収入合計(B)</b>	<b>7,924,073</b>	<b>4,084,528</b>	<b>3,980,953</b>	<b>8,065,481</b>	141,408		

部	科目	当初予算額	前期	後期	決算額 (前期後期合計)	増減 (決算-予算)	備考
			4/1～9/30	10/1～3/31			
支出	<b>会誌発行費 合計</b>	<b>2,315,000</b>	<b>1,067,200</b>	<b>758,177</b>	<b>1,825,377</b>	△ 489,623	
	総合誌印刷費	600,000	0	242,352	242,352		6-1号
	F誌制作費	1,410,000	955,152	488,160	1,443,312		22-2・23-1・23-2
	総合誌編集事務費	5,000	4,820	1,205	6,025		英文校閲
	総合編集会議旅費	100,000	0	0	0		
	F誌編集会議旅費	100,000	107,228	0	107,228		
	J-Stage登載料	100,000	0	26,460	26,460		6-1号
	<b>会誌発送関係費</b>	<b>200,000</b>	<b>81,626</b>	<b>61,741</b>	<b>143,367</b>	△ 56,633	WLF22-2・23-1、6-1、WLF23-2
	<b>事務局運営費</b>	<b>361,800</b>	<b>18,298</b>	<b>169,012</b>	<b>187,310</b>	△ 174,490	
	<b>委託料</b>	<b>1,630,800</b>	<b>815,400</b>	<b>815,400</b>	<b>1,630,800</b>	0	
会員業務	432,000	216,000	216,000	432,000			
事務局設置費	54,000	27,000	27,000	54,000			
会計業務	648,000	324,000	324,000	648,000			
フォーラム誌投稿窓口	64,800	32,400	32,400	64,800			
編集業務	432,000	216,000	216,000	432,000			
<b>青年部会費</b>	<b>300,000</b>	<b>300,000</b>	<b>0</b>	<b>300,000</b>	0		
<b>行政部会費</b>	<b>150,000</b>	<b>0</b>	<b>150,000</b>	<b>150,000</b>	0		
<b>ホームページ関係費</b>	<b>200,000</b>	<b>41,680</b>	<b>89,100</b>	<b>130,780</b>	△ 69,220		
<b>手数料 合計</b>	<b>30,000</b>	<b>24,912</b>	<b>22,170</b>	<b>47,082</b>	17,082		
振込手数料	20,000	8,712	4,860	13,572	△ 6,428		
その他手数料	10,000	16,200	17,310	33,510	23,510	クレジットカード利用月次費用(4月～3月)	
<b>その他 合計</b>	<b>270,000</b>	<b>250,600</b>	<b>37,070</b>	<b>287,670</b>	17,670		
理事会費	250,000	245,600	0	245,600		理事会交通費	
WG会議旅費	0	0	0	0			
選挙管理費	0	0	0	0			
雑費	20,000	5,000	37,070	42,070		男女共同参画学協会分担金	
<b>大会支援費</b>	<b>250,000</b>	<b>0</b>	<b>40,500</b>	<b>40,500</b>	△ 209,500		
<b>大会会計繰入金</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	0		
<b>支出合計(C)</b>	<b>5,707,600</b>	<b>2,599,716</b>	<b>2,143,170</b>	<b>4,742,886</b>	△ 964,714		
<b>次期繰越収支差額(B-C)</b>	<b>2,216,473</b>	<b>1,484,812</b>	<b>1,837,783</b>	<b>3,322,595</b>	1,106,122		

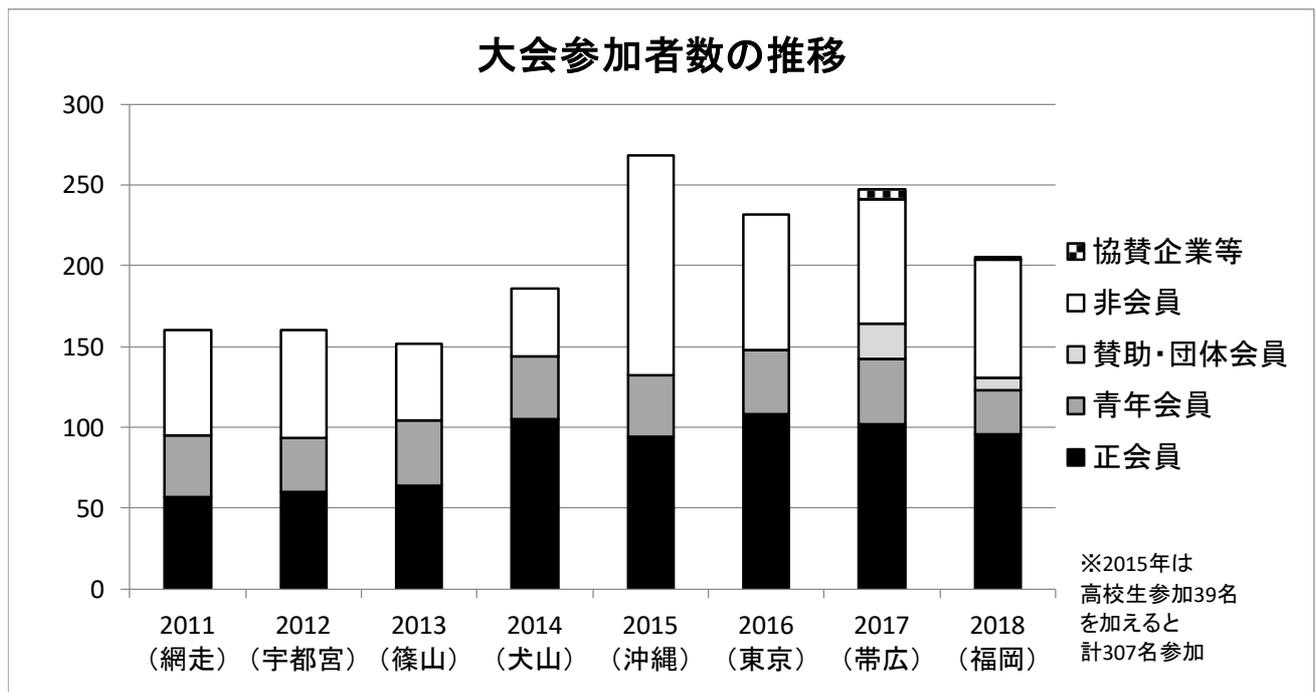
資料1

2009年以降の会員数の推移

### 「野生生物と社会」学会 会員数の推移



最近の大会参加者数の推移 (2017年度より集計区分を細分化)



# 監 査 報 告 書

「野生生物と社会」学会  
会 長 梶 光 一 殿

「野生生物と社会」学会会則および会計監査実施基準に基づき、2018年度の収支決算書の監査を実施いたしましたので、下記の通り結果を報告いたします。

記

異常が無いことを認める。

監査年月日： 2019年 11月 11日

監査（自署）

岩井 雪乃



監査（自署）

鈴木 克哉



以上

資料2

2019年度「野生生物と社会」学会事業計画・予算案

1. 会員

会員区分	個人	青年	団体	賛助	合計
平成30年度当初会員数	402	113	7	14	536
新入会員数	19	15	0	2	36
退会者数	45	18	0	1	64
会員区分変更者	8	△ 8	0	0	8
平成30年度末会員数	384	102	7	15	508
増減	△ 18	△ 11	0	1	△ 28

※賛助会員口数は2018年度3月末時点で16口

2. 会議

理事会 2019年 4月21日 酪農学園大学東京オフィス

2019年11月22日 金沢星稜大学

総会 2019年11月23日 金沢星稜大学

3. 大会

第25回大会 2019年11月22日-25日 金沢星稜大学

4. 学会誌等

学術誌 2019年 4月 6巻2号発行（前年度遅延分）

2019年10月 7巻（電子ジャーナル） 発行開始

2020年 3月 7巻冊子体配布（団体・賛助会員および契約個人会員）

WF誌 2019年 8月 24巻1号発行

2020年 2月 24巻2号発行予定

5. 部会活動等

青年部会 2019年11月 野生生物と農業の共生シンポジウム

行政部会 2019年11月 第25回大会テーマセッション

6. その他

2019年8～9月 第八期役員選挙（10月18日開票済み）

2019年10月 男女共同参画学協会連絡会 2019年男女比率調査

2019年11月 2019年度「野生生物と社会」学会賞 各賞表彰

2019年12月 日本学術会議シンポジウム共催（於、日本学術会議講堂）

## 資料 2

## 「野生生物と社会」学会 2019年度予算案 (2019年4月1日～2020年3月31日)

## 【 1. 収支計算書 】

科 目	2019年度予算額	2018年度予算額	増減 (2019-2018)	2018年度決算額	2017年度決算額	2018年度決算額	当年度予算備考
				(参考)	(参考)	との比較	
<b>会費収入 合計</b>	<b>4,425,000</b>	<b>4,520,400</b>	<b>△ 95,400</b>	<b>4,216,000</b>	<b>4,558,000</b>	<b>209,000</b>	
～前年度会費	100,000	84,000	16,000	120,000	84,000	△ 20,000	
当年度会費	1,000,000	1,363,200	△ 363,200	900,000	1,106,000	100,000	
次年度会費	3,325,000	3,073,200	251,800	3,196,000	3,368,000	129,000	
<b>雑収入 合計</b>	<b>15,010</b>	<b>15,010</b>	<b>0</b>	<b>37,871</b>	<b>242,971</b>	<b>△ 22,861</b>	
電子図書著作権料	0	0	0	0	213,845	0	
バックナンバー	10,000	10,000	0	0	19,441	10,000	
預金利子	10	10	0	11	9	△ 1	
その他	5,000	5,000	0	37,860	9,676	△ 32,860	
<b>雑誌関係収入</b>	<b>226,000</b>	<b>226,000</b>	<b>0</b>	<b>407,778</b>	<b>35,370</b>	<b>△ 181,778</b>	
雑誌売上	10,000	10,000	0	2,778	8,370	7,222	
雑誌広告	216,000	216,000	0	405,000	27,000	△ 189,000	
<b>大会会計繰戻金</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>221,169</b>	<b>432,526</b>	<b>△ 221,169</b>	
<b>当期収入合計(A)</b>	<b>4,666,010</b>	<b>4,761,410</b>	<b>△ 95,400</b>	<b>4,882,818</b>	<b>5,268,867</b>	<b>△ 216,808</b>	
<b>前年度繰越額</b>	<b>3,322,595</b>	<b>2,647,800</b>	<b>674,795</b>	<b>3,182,663</b>	<b>2,162,553</b>	<b>139,932</b>	
<b>収入合計(B)</b>	<b>7,988,605</b>	<b>7,409,210</b>	<b>579,395</b>	<b>8,065,481</b>	<b>7,431,420</b>	<b>△ 76,876</b>	

科 目	2019年度予算額	2018年度予算額	増減 (2019-2018)	2018年度決算額	2017年度決算額	2018年度決算額	当年度予算備考
				(参考)	(参考)	との比較	
<b>会誌発行費 合計</b>	<b>1,660,000</b>	<b>1,810,000</b>	<b>△ 150,000</b>	<b>1,825,377</b>	<b>1,177,440</b>	<b>△ 165,377</b>	
総合誌印刷費	450,000	600,000	△ 150,000	242,352	534,384	207,648	6巻2号遅延分+7巻
J-SATGE搭載費	100,000	0	100,000	26,460	112,860		
F誌制作費	950,000	950,000	0	1,443,312	460,080	△ 493,312	
総合誌編集事務費	10,000	10,000	0	6,025	3,782	3,975	
総合誌編集会議旅費	50,000	100,000	△ 50,000	0	0	50,000	
F誌編集会議旅費	100,000	150,000	△ 50,000	107,228	66,334	△ 7,228	
<b>会誌発送関係費</b>	<b>150,000</b>	<b>200,000</b>	<b>△ 50,000</b>	<b>143,367</b>	<b>94,029</b>	<b>6,633</b>	学会誌遅延分を含む
<b>事務局運営費</b>	<b>361,800</b>	<b>270,000</b>	<b>91,800</b>	<b>187,310</b>	<b>361,946</b>	<b>174,490</b>	
<b>委託料</b>	<b>1,630,800</b>	<b>1,630,800</b>	<b>0</b>	<b>1,630,800</b>	<b>1,630,800</b>	<b>0</b>	
会員業務	432,000	432,000	0	432,000	432,000	0	
事務局設置費	54,000	54,000	0	54,000	54,000	0	
会計業務	648,000	648,000	0	648,000	648,000	0	
フォーラム誌投稿窓口	64,800	64,800	0	64,800	64,800	0	
編集業務	432,000	432,000	0	432,000	432,000	0	
<b>青年部会費</b>	<b>200,000</b>	<b>300,000</b>	<b>△ 100,000</b>	<b>300,000</b>	<b>300,000</b>	<b>△ 100,000</b>	
<b>行政部会費</b>	<b>150,000</b>	<b>300,000</b>	<b>△ 150,000</b>	<b>150,000</b>	<b>100,000</b>	<b>0</b>	
<b>ホームページ関係費</b>	<b>200,000</b>	<b>250,000</b>	<b>△ 50,000</b>	<b>130,780</b>	<b>146,988</b>	<b>69,220</b>	
<b>手数料 合計</b>	<b>40,000</b>	<b>15,000</b>	<b>25,000</b>	<b>47,082</b>	<b>26,580</b>	<b>△ 7,082</b>	
振込手数料	20,000	10,000	10,000	13,572	15,660	6,428	
その他手数料	20,000	5,000	15,000	33,510	10,920	△ 13,510	
<b>その他 合計</b>	<b>540,000</b>	<b>385,000</b>	<b>155,000</b>	<b>287,670</b>	<b>265,174</b>	<b>252,330</b>	
理事会費	250,000	250,000	0	245,600	249,374	4,400	
WG会議旅費	50,000	100,000	△ 50,000	0	0	50,000	
選挙管理費	200,000	0	200,000	0	0	200,000	
雑費	40,000	35,000	5,000	42,070	15,800	△ 2,070	
<b>大会支援費</b>	<b>100,000</b>	<b>300,000</b>	<b>△ 200,000</b>	<b>40,500</b>	<b>145,800</b>	<b>59,500</b>	
<b>支出合計(C)</b>	<b>5,032,600</b>	<b>5,460,800</b>	<b>△ 428,200</b>	<b>4,742,886</b>	<b>4,248,757</b>	<b>289,714</b>	

次期繰越収支差額(B-C)	2,956,005	1,948,410	-	3,322,595	3,182,663	-
単年度収支差額(A-C)	△ 366,590	△ 699,390	-	139,932	1,020,110	-

2019 年 10 月 19 日

「野生生物と社会」学会  
会長 梶 光一 殿

「野生生物と社会」学会 第八期役員選挙  
選挙管理委員長（事務局長）角田裕志

「野生生物と社会」学会第八期役員選挙開票結果について

2019 年 10 月 18 日に「野生生物と社会」学会第八期役員選挙の開票を行いましたので、下記の通り開票結果を報告いたします。

記

公示日 2019 年 8 月 1 日  
投票締切日 2019 年 9 月 30 日（消印有効）  
開票日 2019 年 10 月 18 日  
有権者数 331 名  
投票者数 85 名  
有効投票数 85 名  
投票率 25.7 %

当選者 10 名（得票順で同数の場合は五十音順、敬称略）（）内は得票数

角田裕志（50）、江成広斗（48）、梶光一（48）、横山真弓（48）、山端直人（44）、小寺祐二（39）、本田裕子（34）、鈴木正嗣（16）、八代田千鶴（15）、吉田正人（12）

補欠当選者 5 名（得票順、敬称略）（）内は得票数

須藤明子（11）、小池伸介（9）、關義和（8）、安田章人（8）、桜井良（7）

※補欠当選者の 15 位は同得票数の者が他に 3 名いるが、会則附則役員選挙第 3 条に従い、最も低年齢の者を当選とする。

以上

資料 3

補足：事務局長推薦（得票順で同数の場合は五十音順、敬称略、）（）内は得票数（すべて他薦）

角田裕志（6）、江成広斗（3）、小寺祐二（2）、敷田麻実（2）、中村大輔（2）、奥山正樹（1）、關義和（1）、山端直人（1）

「野生生物と社会」学会表彰規約（改定案）

（目的）

第 1 条

我が国の野生生物の適切な保護管理の進展を図ることを目的として、優れた研究業績・活動実績を持ち、本会の発展に大きく貢献している本会会員を表彰する。表彰の種類は、学会賞、若手奨励賞、学会功労賞およびポスター賞とする。

（資格）

第 2 条

1. 学会賞

学会賞は、野生生物の保護管理の進展に資する顕著な業績をあげた本会会員を顕彰することを目的とする。審査対象となる業績とは、本会が学術定期刊行物として発行する「野生生物と社会」（旧刊行物である野生生物保護、**Biosphere Conservation** を含む）に発表した論文、そのほかの関連学術誌に掲載された論文、書籍、野生生物の保護管理に資する実践的な活動とする。

2. 若手奨励賞

若手奨励賞は、野生生物の保護管理の進展に資することが期待される若手の本会会員を顕彰することを目的とし、本会が学術定期刊行物として発行する「野生生物と社会」（旧刊行物である野生生物保護、**Biosphere Conservation** を含む）に 2 報以上の論文（論文のカテゴリは問わない）を筆頭著者として発表し、該当論文が受理された年度末において満 35 歳以下である会員、もしくは博士の学位取得後 5 年以内の会員から選考する。なお、審査対象の業績として、そのほかの関連学術誌に掲載された論文、書籍、野生生物の保護管理に資する取り組みも含めることができる。

3. 学会功労賞

学会功労賞は、本会の運営及び後進の指導育成について顕著な業績をあげた本会会員を顕彰することを目的とし、原則として受賞年度末において満 50 歳以上の会員から選考する。

4. ポスター賞

ポスター賞は、本会大会における若手会員の優秀なポスター発表を顕彰することを目的とし、本会大会のポスター発表の筆頭演者となった青年部会員から選考する。

（申請手続き）

第 3 条

1. 学会賞及び若手奨励賞の授賞にあたっては、当該会員または理事が所定の様式により会長に申請する。

2. 学会功労賞の授賞にあたっては、理事が所定の様式により会長に申請する。

## 資料 4

3. ポスター賞の受賞にあたっては、ポスター賞審査登録を当該会員が大会申込時に会長へ申請する。なお、審査登録の申請は、大会開催実行委員会を通じるものとする。

### (審査)

#### 第 4 条

1. 前条第 1 および 2 項の申請に基づき、理事会において学会賞、若手奨励賞及び学会功労賞について審議する。会長は議決権を有する出席者の過半数の賛成を得たものを受賞者と決定し、審議結果を受賞者に通知する。
2. 前条第 3 項の申請に基づき、理事会が任命したポスター賞選考委員会がポスター賞について審査する。審査項目と採点様式については、ポスター賞選考委員会が定めるものとする。

### (表彰)

#### 第 5 条

1. 学会賞、若手奨励賞及び学会功労賞受賞者の表彰は総会において行い、賞状を贈る。
2. ポスター賞受賞者の表彰は懇親会において行い、賞状を贈る。

### (公表)

#### 第 6 条

受賞者の氏名及び受賞内容については当該年度の総会において、会長が報告する。また、学会賞・若手奨励賞の内容については、当該年度の大会期中において受賞者による口頭発表の機会、および会誌（野生生物と社会、もしくはワイルドライフ・フォーラム）における該当業績に関する公表の機会を設ける。

### (改廃)

#### 第 7 条

この規則の改廃は、理事によって提案され、理事会の議決によって決定する。

### 付則

本規約は、2005 年 11 月 8 日の理事会での議決により成立し、2005 年 11 月 18 日から施行する。

本規約は、2009 年 11 月 6 日の理事会議決により、2009 年 11 月 7 日から改定する。

本規約は、2011 年 5 月 19 日の理事会議決により、同日から改定する。

本規約は、2012 年 11 月 16 日の理事会決議により、11 月 17 日の会則改正に沿って改定する。

本規約は、2019 年 5 月 27 日の理事会メール審議により決議し、同日から改定する。

## 2019 年度「野生生物と社会」学会賞 受賞者

2019 年 5 月 27 日の理事会の審議により、本学会賞の表彰規約が改正されました。これまでの表彰要件を大きく見直し、また旧・学術賞を「学会賞」、旧・奨励賞を「若手奨励賞」、旧・功労賞を「学会功労賞」とそれぞれ改称して、野生生物と社会に関する学術研究や実践の現場で優れた成果を上げた会員、および学会活動に大いに貢献された会員を表彰します。

改定後の記念すべき第 1 回目となる 2019 年度は、学会賞 1 名、若手奨励賞 2 名、学会功労賞 1 名の計 4 名を表彰する運びとなりました。授賞式を 11 月 23 日の本学会総会時に開催いたします。

### 2019 年度学会賞 受賞者 (1 名)

横山 真弓 氏 (兵庫県立大学自然・環境科学研究所 教授)  
「モニタリング結果に基づくツキノワグマの保護管理体制の構築」

### 2019 年度若手奨励賞 受賞者 (2 名)

池田 敬 氏 (岐阜大学応用生物科学部  
附属野生動物管理学研究センター 特任助教)  
「実学から見たニホンジカやイノシシの個体数管理」

久井 貴世 氏 (日本学術振興会 特別研究員)  
「歴史鳥類学」から探る江戸時代のツルの生息実態と人との関わり」

### 2019 年度学会功労賞 受賞者 (1 名)

赤坂 猛 氏 (一般社団法人エゾシカ協会 代表理事)

※なお、11 月 24 日午前 9:00 より、テーマセッションとして受賞記念講演を開催いたしますので、多くの会員のご参加をお待ちしております。

## 資料6

### 【企 画】

官民学による野生生物調査の仕事～見えない世界を知る

### 【担当幹事】

池田敬、國永尚稔、遠藤友彦、中村大輔、奥田圭

### 【日 時】

2019年3月10日（日）10時～17時

### 【場 所】

岐阜大学サテライトキャンパス

### 【参加者】

52名（学生：37名、参加団体：6団体/11名、スタッフ4名）

### 【学生内訳】

学部：29名、修士：6名、博士：2名（学会員：1名、非会員：36名）

### 【参加団体】

株式会社一成、株式会社グリーンコップ、中日本航空株式会社、株式会社野生動物保護管理事務所、岐阜県庁、岐阜大学（株式会社アイエスイーは担当者が急病につき欠席）

### 【主な内容】

前半では、各団体の発表者が①会社、②業務内容（会社全体の業務全般、受託した野生生物に関する仕事）、③学生へのアピール、④働いていて辛いところ・やりがい、⑤会社の採用情報などを35分間で紹介した。後半では、団体ごとにブースを設置し、参加者は90分間自由に移動できるようにした。各ブースでは、各団体が学生にさらに細かい説明を行ったり、質疑応答を行ったりした。

### 【アンケート結果】

セミナーの満足度は、31名が「満足した」結果を示しており、時間（33名）や情報量（32名）についても「適度」と回答していた。

各団体の発表は、参加者全員が仕事への理解を「深めた」と「やや深めた」と回答しており、有意義な発表であったと考えられる。その一方で、参加者の進路については、22名が「少し具体的になった」と回答したが、9名が「どちらでもない」や「あまり変わらず」と回答していた。

セミナーを知った情報媒体は「ML（12名）」が多かったが、11名が「教員や先輩、大学からのアナウンス」と記述していた。それに比べて、「SNSや口コミ、チラシ」は4-5名とあまり多くなかった。

今後のセミナーへの要望としては、今回と同様の説明会（6名）、各地域での開催（3名）、NPOの紹介（2名）などの要望があった。また、感想としては、「幅広い職種の話を知ることができて有意義だった」や「仕事や会社の詳細を知ることができた」などが挙げられていた。

本セミナーに関するアンケートを各団体に配布した結果、2団体は「時期が不適」と回答していた。時期的に難しいと断った企業もあったので、今後は上半期で学生が集まりやすい時期を検討する必要がある。

セミナーの形式は概ね「満足した」という回答だったが、2団体は「発表時間が長い」と回答していた。その点では、発表時間はもう少し短くし、ブース時間を長く設けても良かった。また、参加人数について、5団体が「多くも少なくもない」、1団体が「やや少ない」と回答していた。場所や時期による影響もあるが、参加人数を増やすことのできる時期や場所を検討する必要があるだろう。

今後のセミナーは、5団体が「青年部会による主催を望む」と回答しており、学生や企業の満足度を考えると、継続的に開催する必要があるだろう。その一方で、場所について、学生が集まりやすい地域での開催が重要である。しかし、部会企画は幹事の所属地域に左右される部分があり、開催地域は今後の課題である。

収支報告書						
「野生生物と社会」学会青年部会平成30年度決算						
会計報告責任者:加藤恵里(千葉大学)						
作成年月日:平成31年3月15日						
単位:円						
科目	予算額	単価	数量	決算額	増減(決算-予算)	備考
<b>収入の部</b>						
<b>(基本収入)</b>						
平成29年度繰越金	27,222			27,222	0	
平成30年度支援金	300,000			300,000	0	
<b>(事業収入)</b>						
現場企画	60,000				△ 60,000	
シンポジウム企画	20,000			18,500	△ 1,500	企業セミナー
<b>(その他)</b>						
雑収入	0			1	1	利子
収入合計	407,222			345,723	△ 61,499	
<b>支出の部</b>						
<b>(事業支出)</b>						
現場企画	150,000			0	△ 150,000	
シンポジウム企画	130,000			100,044	△ 29,956	企業セミナー
大会企画	10,000			49,740	39,740	学生演者旅費
企画公募	100,000			0	△ 100,000	
<b>(事務・その他)</b>						
交通費	10,000			2,440	△ 7,560	理事会旅費
文具	2,000				△ 2,000	
雑費	2,000			1,260	△ 740	印刷代
通信費	0				0	
支出合計	404,000			153,484	△ 250,516	
科目	当初予算額			決算額	増減(決算-予算)	備考
収入合計	407,222			345,723	△ 61,499	
支出合計	404,000			153,484	△ 250,516	
収支差額	3,222			192,239	189,017	

収支報告書						
「野生生物と社会」学会青年部会平成31年度予算案						
会計報告責任者:加藤恵里(千葉大学)						
作成年月日:平成31年3月15日						
単位:円						
科目	予算額	単価	数量	決算額	増減(決算-予算)	備考
<b>収入の部</b>						
<b>(基本収入)</b>						
平成30年度繰越金	192,238				△ 192,238	
平成31年度支援金	300,000				△ 300,000	
<b>(事業収入)</b>						
現場企画	60,000				△ 60,000	2回分
シンポジウム企画	40,000				△ 40,000	2回分
<b>(その他)</b>						
雑収入	0				0	
収入合計	592,238			0	△ 592,238	
<b>支出の部</b>						
<b>(事業支出)</b>						
現場企画	200,000				△ 200,000	2回分
シンポジウム企画	200,000				△ 200,000	2回分
大会企画	50,000				△ 50,000	
企画公募	100,000				△ 100,000	
<b>(事務・その他)</b>						
交通費	30,000				△ 30,000	
文具	2,000				△ 2,000	
雑費	2,000				△ 2,000	
通信費	0				0	
支出合計	584,000			0	△ 584,000	
科目	当初予算額			決算額	増減(決算-予算)	備考
収入合計	592,238			0	△ 592,238	
支出合計	584,000			0	△ 584,000	
収支差額	8,238			0	△ 8,238	



日本学術会議公開シンポジウム

# 持続可能な野生動物管理 システムの構築と人材養成

令和元年12月3日（火）13:00-17:00

（12:15受付開始）

会場

日本学術会議 講堂

（東京都港区六本木7-22-34）

参加費無料  
事前登録不要

今回の日本学術会議 公開シンポジウムでは、日本型管理システムの提案を紹介し、先進的な野生動物管理を実施している県および市町村の取り組みの実例報告に基づいて、科学的な野生動物管理システムとそれを支える人材の具体像と課題を把握して、情報の共有化と提言の実現に向けての総合討論を行う。

## プログラム

- 13:00-13:15 開会挨拶：山極 壽一（日本学術会議会長、京都大学総長）  
鳥居 敏男（環境省自然環境局長）
- 13:15-13:35 趣旨説明：鷺谷 いづみ（日本学術会議連携会員、中央大学理工学部教授）
- 13:35-14:00 日本型野生動物管理システムの提案：  
梶 光一（日本学術会議特任連携会員、東京農工大学名誉教授）
- 14:00-14:25 兵庫県における野生動物管理システム：  
横山 真弓（日本学術会議特任連携会員、兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授）
- 14:25-14:50 島根県における野生動物管理システム：  
金森 弘樹（島根県中山間地域研究センター農林技術部研究調整監（鳥獣対策科長））
- 14:50-15:05 休憩
- 15:05-15:30 小諸市における鳥獣対策システム：  
竹下 毅（長野県小諸市農林課林務係主査）
- 15:30-16:30 リレートーク&討論：「科学的野生動物管理へ：学術からの展望」  
・農山村の持続性の視点から 小田切 徳美（日本学術会議第二部会員、明治大学教授）  
・野生動物管理にかかわる人材育成と配置 鈴木 正嗣（日本学術会議特任連携会員、岐阜大学教授）  
・野生動物の資源利用における衛生管理 高井 伸二（日本学術会議第二部会員、北里大学獣医学部教授）  
コーディネータ：湯本 貴和（日本学術会議特任連携会員、京都大学霊長類研究所教授）
- 16:30-16:45 回答の政策化において：川越 久史（環境省自然環境局鳥獣保護管理室長）
- 16:45-17:00 閉会の挨拶：鷺谷 いづみ（日本学術会議連携会員、中央大学理工学部教授）

主催：日本学術会議課題別委員会「人口縮小社会における野生動物管理のあり方の検討に関する委員会」

共催：野生動物管理全国協議会、「野生生物と社会」学会

後援：環境省、農林水産省、日本生態学会、日本哺乳類学会

問合せ先：日本学術会議「人口縮小社会における野生動物管理のあり方の検討に関する委員会」副委員長 梶 光一 E-mail:kkaji@cc.tuat.ac.jp